



某

3月11日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

3月11日のおはなし「某」

○男の回想

子ども（女1）「かあさん、この木はなんて木？」
母（男1）「樫だよ、なにガシ」
子ども「ナニガシ？」
母「そう、ナニガシ」
子ども「ナニガシっていうの？」
母「うるさいね。そう言ってるだろう」
子ども「じゃあ樫の木じゃないの？」
母「モミノキ？ モミノキじゃないねえ」
子ども「じゃあクリスマスツリーにはできないの？」
母「クリスマスツリー？ どうしてまたクリスマスツリーになんかするのさ」
子ども「クリスマスの飾り付けをしたいから」
母「どうしてまたクリスマスの飾り付けなんかしたいのさ」
子ども「クリスマスだからだよ」
母「じゃあ何かい？ クリスマスだったらみんな飾り付けしなくちゃならないのかい？」
子ども「みんなしてるじゃないか」
母「みんながしてたらあんたは人だって殺すのかい？」
子ども「殺さないよ。それにみんなは人を殺してなんかいないよ」
母「おだまり！」
子ども「……」
母「……」
子ども「……」
母「おしゃべり！」
子ども「え？」
母「だまってないでしゃべりなさい場が持たないから！」
子ども「そんなあ」
母「うちはね」
子ども「え？」
母「うちはダメなんだよ」
子ども「ええ？」
母「うちはクリスマスはやらないからダメだよ」
子ども「どうして？ どうしてやらないの？」
母「うちはイスラム教だからね」
子ども「ええ？」

○現在

男1「それがきっかけ」
女1「それがきっかけ？」
男1「そう。そんな風にしておれはムスリムになったんだ」
女1「なーんだ」
男1「なーんだって何だ」
女1「面白くない」
男1「面白くないって何だ」
女1「だってそれ、冗談でしょ？」
男1「ちっちっち。おまえはおれのおふくろを知らないからそんなことが言えるんだ」
女1「なに、 どういうこと」
男1「本当に改宗したんだ」
女1「本当に改宗した？」

男1 「次の日の朝、おふくろは近所のモスクに行って改宗の手続きをしてきた」
女1 「そんな。区役所の窓口じゃないんだから」
男1 「甘いな」
女1 「甘い？」
男1 「イスラムに改宗するのは簡単なんだ」
女1 「うわー嘘っほい」
男1 「マジだって。本当はモスクに行く必要さえない。二人以上のムスリムの前で信仰告白をすればいい」
女1 「信仰告白？」
男1 「アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イラーッラー、アシュハド・アンナ・ムハンマダン・ラスールッラー」
女1 「ええと、イチ、イチ、なんだっけ」
男1 「何してんの」
女1 「救急車、呼ぼうと思って」
男1 「これが信仰告白だよ、イスラム教の。『アッラーのほかに神はない。ムハンマドはアッラーの使徒である』ってね」
女1 「でも先輩が入信したわけじゃないんでしょ？」
男1 「親がムスリムなら子どもは自動的にムスリムなの」
女1 「いやならやめればいいのに」
男1 「別にいやじゃなかったからな」
女1 「それ、ほんとなんですか？」
男1 「本当だ」
女1 「適当に言ってませんか、その、ラーラーとか言うの」
男1 「え？ 信仰告白を疑ってんの？」
女1 「っていうか、全部」
男1 「いいんだけどさ。ま、それが、ほら、飲めない理由」
女1 「なんかすっきりしないなあ」
男1 「おい。人の宗教つかまえてすっきりしないって」
女1 「普通に『クルマ乗ってきた』とか言われた方がわかりやすいんですけど」
男1 「クルマ乗ってねーし、マジ、ムスリムだし」
女1 「ふーん」
男1 「あっれー！ 信仰の話をして、こんなテキトーな反応がかえってくるのは日本くらいだぞ」
女1 「うん。でも、まあ」
男1 「まあいいや。じゃあおまえは？」
女1 「え？ 何が？」
男1 「おまえのクリスマスの思い出」
女1 「いいですよ私は」
男1 「よかないよ。おまえが言い出したんだろ？ 子どものころのクリスマスの思い出話しませんかって」
女1 「言ったけど」
男1 「言ったけど、何だよ」
女1 「思ってたのと、違うし」
男1 「じゃ、どういうの思ってたんだよ」
女1 「えー。そうだなあ」

○女の回想

兄（男1） 「バカだなあミホは」
妹（女1） 「いるもん」
兄（男1） 「いるわけねーじゃん」
妹（女1） 「だっているもん」
兄（男1） 「俺、去年見たもん」

妹（女1）「何を？」
兄（男1）「おかあさんが夜中にこっそり」
妹（女1）「見てないくせに」
兄（男1）「見たんだって」
妹（女1）「ミホは見てないもん」
兄（男1）「だから俺が見たんだって」
妹（女1）「ミホはお兄ちゃんが寝てたの見たもん」
兄（男1）「そりゃ寝てるときもあったけど」
妹（女1）「ずっと見てたもん！」
兄（男1）「寝ないで見てたのかよ」
妹（女1）「ミホは寝ないで見てたもん！」
兄（男1）「じゃ、サンタも来なかったろ」
妹（女1）「……」
兄（男1）「おかあさん、来たる」
妹（女1）「お兄ちゃんのバカ！」
兄（男1）「おい泣くなよ」
妹（女1）「泣いてないもん！」
兄（男1）「泣くなって」
妹（女1）「サンタさんいるもん！」

妹、泣き続ける。兄、困ってその様子を見ている。

兄（男1）「あー」
妹（女1）「なに？」
兄（男1）「あれかもしれない」
妹（女1）「あれって？」
兄（男1）「妖精だったかも」
妹（女1）「ようせい？」
兄（男1）「おれが見たの、妖精だったかも」
妹（女1）「どういうこと？」
兄（男1）「おかあさんじゃなくて、妖精だったかも」
妹（女1）「なんで妖精が来るの？」
兄（男1）「あれだよ、サンタさんの手下」
妹（女1）「サンタさんに手下がいるの？」
兄（男1）「だってほら、ひとりで世界中の子どもたちに配るの、大変だろ？」
妹（女1）「ふーん」

○現在

男1「どうした」
女1「ん？」
男1「おまえの思い出話は？」
女1「やっぱやめた」
男1「なんで」
女1「なんかフツーなんだもん」

（「妖精」 ordered by Buy on dip かりん。-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

某

<http://p.booklog.jp/book/45837>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45837>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/45837>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.